

2009年9月14日（月）18：30～19：30

レセプション・スピーチ

(1) 「世界同時不況後の国際経済秩序とアジアの貢献」

豊田 正和 内閣官房参与

世界不況後のアジア間協力について、大きく3つの視点から議論可能と考える。まず1つ目は、世界同時不況後の新しい世界秩序はどのような特徴をもっているのか。次に新しいアジアの役割は何か。最後にアジアが経済不況等の世界の課題に対してどのような貢献ができるかという点である。

まず新しい秩序の特徴については、第1に単極性から多極性への移行が挙げられる。最も典型的なものはG7からG20への変化だと思う。米国依存型から先進国と途上国と一緒に作り上げる秩序である。第2に単一性から異種混合性になったことだ。今後の世界は、欧米を中心とする価値観だけではなく、さまざまな宗教・システム・価値観を踏まえた新しい価値体系の創造が必要となる。第3に単層的なものから多層的なものへの変化だ。この例としては、東アジア協力・APECやメルコスールなど、2国間協力、地域協力などが挙げられる。

次にアジアの役割だが、アジアは今後米・欧とともに世界を支える世界のエンジンであり、新しい価値観の担い手であり、多層協力の代表選手の一つとも言えるだろう。

最後に、世界的課題へのアジアの貢献について考えよう。世界不況からの脱却、保護主義への対抗、地球温暖化への対策等だ。

2007年のGDPデータを見ると、例えば、ASEAN+6で11兆ドル。NAFTA・EUも16-17兆ドル。2007年の時点でASEAN+6はGDPベースで欧米の7割弱の規模に達している。2009年はGDP成長率を落としているものの、他国と比べるとアジアの成長率は非常に高い。今後10年間の成長率を平均して6-7%とすると、ASEAN+6においては10年で倍増近いという議論がある。

日本が足を引っ張らないかが課題。日本が共に成長できれば、アジア経済の倍増も可能ではないか。世界不況からの脱却に止まらず、世界を支えるエンジンの一つになれる。今ASEAN+6は単なる財政支出ではなく、包括的な広域開発について話し合っている。ERIAというASEAN+6諸国の問題を議論する機関が成立したが、そこは東アジアのOECD的な政策論議の場の形成を目指している。

地球温暖化への対応に関しては、ASEAN+6 ベースで行われているのはエネルギー効率化の実務的検討・協力である。ブラックボックスの中で地球温暖化問題は十分解決できない。

アジアが世界に大きな貢献をするためには協力の意思が必要。このフォーラムは大きな協力に向けたコンセンサスを作り、協力を現実のものにするきっかけになったのではないか。
